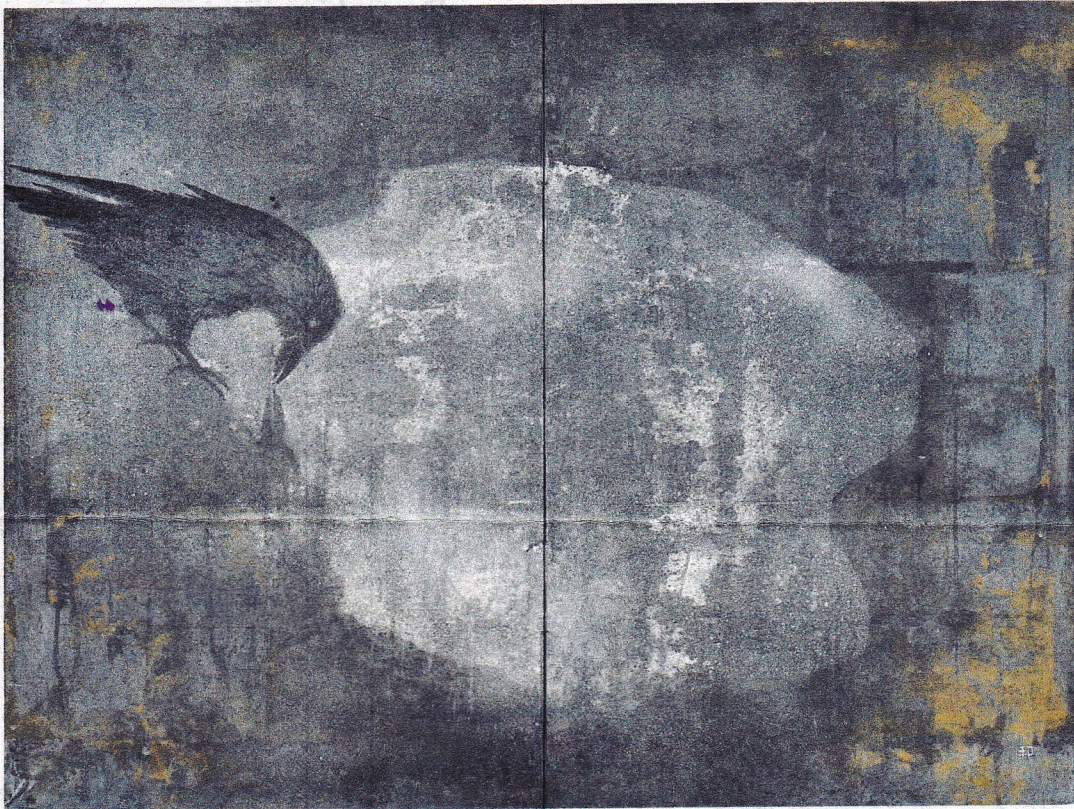


第68回県美術展（県展、主催は同展運営委員会、共催：県・県教育委員会・信州美術会・県市長会・県町村）が26日、松本市中央4の同市美術館で始まる。入賞入選作と審査外の作品（審査員の作品など）を合わせ652点を7月3日まで展示する（6月27日は休み）。

日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門を合わせた今回の応募数は733点で、前回よりも32点少なかった。審査は6月21日と22日に行い、入選作598点（うち入賞作35点）を決めた。主な入賞作や今回の全体的な傾向について、各部門の審査長に評してもらった。（敬称略）



水たまり 百瀬邦孝

日本画

後藤 修

のびのびと気持ちを描き通す

限られた時間の中で多くの作品を丁寧に、慎重に見る作業は困難であった。今年の応募作は全般的にレベルが向上しているように見える一方で、やや地域差も感じられた。しかし、のびのびと自分の気持ちを描き通した良質な作品と出合うことができたのは喜びであった。また、それぞれの作品に対する真摯な取り組みに対しても、さわやかな好感を感じた。

▽知事賞「水たまり」百瀬邦孝 研ぎ澄まされた構成と色彩を抑えた表現で、力強い。構築性と確かな絵肌で空間が成り立っている。

▽県教育委員会賞「歳月（北欧・馬の水飲み場）」中村ゆみ 大まかに見える筆触ながら、みずみずしい感性が画面に開放感を生み、好感が持てる。

▽信州美術会賞「春の風」沖みどり 洗練された色彩と巧みな画面構成が魅力的である。

▽JA長野中央会賞「好日」白石茂子 確かなデッサンと構成に支えられ、色彩があたたかく美しい。

▽信毎賞「待春」矢羽福枝 清純な雰囲気、細やかな色彩の調子によってよく表現されている。

▽八十二文化財団賞「緑滴る」木村宗登 自然の一隅を見逃さず、清らかな空気を率直に表現した若々しい作品。
ほかに賞候補として心に残ったのは伊藤知英子、江森ふさえ、北原育芳、小林努、中村敬而らの作品。今後の活躍を期待したい。